

第17回 福岡県美しいまちづくり賞 受賞作品



- 大賞：[カルシア小戸ナチュア](#)【住宅の部】
- 優秀賞：[森の風レストラン「かなかな」](#)【一般建築の部】
- 優秀賞：[リンデンホール小学校](#)【一般建築の部】
- 優秀賞：[志摩町井田原地区](#)【まちなみ景観の部】
- 優秀賞：[志摩町稲留地区](#)【まちなみ景観の部】
- 貢献賞：[宝珠山ホテルを育てる会](#)
- 貢献賞：[めだか塾](#)
- 貢献賞：[特定非営利団体別松金山川コスモス会](#)

(財)福岡県建築住宅センター理事長賞：[宝珠山村保健福祉センター「いずみ館」](#)



カルシア小戸ナチュア

建築主：(株)サワライズ
設計者：(株)竹中工務店九州支店
森山 悟
施工者：(株)竹中工務店九州支店
(株)さとうベネック福岡支
社
所在地：福岡市西区小戸
竣工年月：平成 16 年 2 月



講 評	設計趣旨
<p>南北2列の住棟に囲まれ、ヒューマンスケールで構成された2つの路地空間に展開される豊かな植栽と、中央広場の開放的な芝生によってもたらされたランドスケープは、リズム感に富む建物の立面構成、シンプルながらインパクトのある色彩を用いた壁面構成、塀のない開放的な敷地境界とあいまって、心地よい住環境を提供している。ローコストながら賃貸住宅にありがちな仮住まい的な風情を微塵も感じさせず、むしろ個を大切にしながらも、住み手どうしが濃密なつながりをもちコミュニケーションを育むことを予感させる新しい都市生活の場が実現されている。</p>	<p>敷地の約7割の空地に4000本を越える植栽を施した34戸の低層低密度賃貸集合住宅です。この豊かな緑環境を周囲からも共有できるように敷地周辺はあえて囲い込まずに植栽を施し、敷地内を垣間見る隙間を作っています。さらに建物をリニアに配置し、分節化させながら圧迫感を軽減して景観を含めた周辺環境との調和を図っています。豊かな植栽を伴い奥行きをもった様々な路地空間によって全体を緩やかに繋ぐこのランドスケープが、これからの時間を確実に蓄えながら成長し、環境との関わり合いながら生活を営む、そうした環境と文化の新たな表出を願っています。</p>



森の風レストラン「かなかな」

建築主 : (有)果樹農園 風の旅 森の風
 設計者 : 古森弘一建築設計事務所
 古森 弘一
 施工者 : 大和ハウス工業(株)北九州支店
 所在地 : 築上郡大平村大字東上
 竣工年月 : 平成 16 年 2 月

講 評	設計趣旨
<p>この作品の特徴は、周防灘に向かってパノラマ状に広がる絶景を建物とテラスを覆う水平の大屋根によって切り取り我がものとしたところにあることは間違いない。しかし、その真価は訪れる客を心よりもてなし、穏やかで幸福感に満ちた時間を提供すべく、アプローチから室内部に至る空間に注がれた作者の温か</p>	<p>この施設は癒しの場「森の風」に計画されたレストランで、通常用途に限らず、コンサートやプライベートパーティなど多目的な利用が想定されました。設計するにあたり、まず、計画敷地から望める周防灘や国東半島をどうやって建物の中に取り込むかを検討しました。そこで、幅 28m、奥行 3mのキャンチレバ</p>

な眼差しとデザイン心によって問われるべきであろう。その細やかな配慮があればこそ、絶景とのコントラストにより訪れる客に至福の時を増幅させるのである。

一の庇を建物からのばし、敢えて上下の視線を切ることで風景をパノラマ状に切り取り、建物内から眺める景色を特別なものにしてあります。また、内装を聚楽系塗料吹付にすることにより幅広い音域に対してばらつきのない音響効果を得て、臨場感のあるコンサートを実現しています。



リンデンホール小学校

建築主 : 学校法人 都築育英学園
設計者 : (株)竹中工務店九州支店
大坪 昌裕
施工者 : (株)竹中工務店九州支店
所在地 : 太宰府市五条
竣工年月 : 平成 16 年 3 月

講 評	設計趣旨
起伏にとみ、かつ不整形な敷地形状に逆らうことなくおらかで伸びやかに配置されたこの小学校は内部における流れるようなプランニングおよび断面構成とあいまって、周囲の自然に溶け込んだ美しい建物に仕上がっている。個性豊かな国際人を育てるためにほとんどの授業を英語で行う一方、伝統的な日本文化の習得のために、自然が残る敷地内にと点在させた諸施設もユニークで、児童の創造性を喚起する教育空間が展開されている。	英語で授業を行うイマージョン教育(外国語習得法のひとつ)の実践と日本の伝統、文化、芸術を体得するカリキュラムを導入した先進的な小学校である。コミュニケーションを促すため楕円形の吹き抜け空間を中心に円弧に沿って教室を配置した。校舎の平面は瞳の形をイメージし外装にガラスを採用することで子どもの瞳の輝きを表現し、ガラスが緑や雲を映しこみ周囲の山や空に同化することで圧迫感を軽減させることを意図した。また校舎に隣接する体育館とカフェを幾重もの円弧の組合せによる施設構成として、視点の移動に伴うシーケンスの変化をもたらす周辺の自然と呼応する新鮮な景観形成を試みた。

優秀賞

まちなみ景観の部

稲留地区

所在地：糸島郡志摩町大字稲留



講評	地区概要
<p>この地区も、農村であればどこにでもありそうな平均的な農村集落で、ハード面の視点から評価するならば、これといって特徴のある集落とはいえない。そうであるが故に様々な開発のあおりでいとも簡単に消滅あるいは改変されていく集落が多い中で、古い家屋の改修にあたってはできるだけ木質系の素材を多用した伝統的な工法を用いるなど、昔ながらの素朴なたたずまいやまちなみ景観を維持すべく地域を挙げての保全活動を行っており、今後における同種の集落保全の活動の励みとなるものとして評価できよう。</p>	<p>当該地区は、火山の麓に位置しており、瑠璃光寺、蓮照寺及び稲留神社を有する閑静な門前町であり、住民の多くは長年当該地区に住み続けている、いわゆる地の人で、主に農業に従事している。山頂へと続く地区内の曲がりくねった細い参道に沿って、板壁や漆喰壁等の昔ながらの木造建物やレンガ塀、石垣等が建ち並んでおり、風情のある落ち着いた集落のまちなみ景観を構成しているが、これらの建物等は先祖代々より受け継がれてきており、自主的に伝統を守る形で現在も増改築や維持管理がなされている。</p>

優秀賞

まちなみ景観の部

井田原地区

所在地：糸島郡志摩町大字井田原



講評	地区概要
----	------

<p>大都市福岡から押し寄せる都市化の波にやがて飲み込まれそうな勢いを一方で感じさせながら、まだまだ長閑な田園風景が広がる糸島郡志摩町の中にあるこの地区にさほど特異な景観がみられるわけではない。しかし、住民が長い年月をかけて育てた生け垣に、連続する景観の価値を見い出すことができると共に、私的な造園活動が公共空間の質を高め、親しみのあるまちなみ景観を作り上げることに寄与するものであることに気付かされる。集落近くの段々畑の蜜柑園を幾重にも囲むまきの木の防風林による一種独特の景観も、棚田のような生産活動に由来する優れた自然景観を彷彿させる。</p>	<p>当該地区は古くからの純農村集落で、米や野菜(キャベツ、きゅうり、いちご等)に加えて、みかん及び花の栽培が盛んな地区である。地区内の建物の多くは、昔ながらの木造在来住宅や農業用倉庫等であり、広い敷地の中にゆとりのある配置がなされている。田園景観と調和した細い町道に面して、各戸毎にマキ、ポウガシ(アラカシ)、観賞用の竹類(ホウライチク)等の思い思いの生け垣が植えられており、自主的に行き届いた手入れがなされている。緑に囲まれた落ち着いた佇まいは、のどかな田園風景を呈しており、今後のまちづくり活動において、さらに良好な景観づくりを目指していきたいと考えている。</p>
--	--



宝珠山村保健福祉センター「いずみ館」

建築主 : 宝珠山村
 設計者 : (株)徳岡昌克建築設計事務所
 徳岡 昌克
 施工者 : 東急建設(株)九州支店
 所在地 : 朝倉郡宝珠山村大字宝珠山
 竣工年月 : 平成 15 年 9 月

講 評	地区概要
<p>大小3層の大屋根によって切り分けられた壁面のアースカラーが背後の杉木立と程よいコントラストを成していて美しく、山あいの緑の風景への溶け込みを図った作者の設計意図が鮮明である。内部にあたってはふんだんに使用された木材と木立の中のとこもれびのように優しく室内に注ぎ込む自然採光によりぬくもりのある空間が得られ、省エネにも役立っている。回遊銅線による明快な銅線による機能性にとむ</p>	<p>保健、福祉、文化という3つの異なる機能を明快に区分しながら、必要に応じて連携利用を可能にするため、ギャラリーや便所を挟んでエントランスホールとラウンジという二本の長軸空間を平行配置することで、建物内外に多様な回遊銅線を創出した。構造・意匠面では、癒しの象徴ともいえる「森」をテーマに、健全な精神と肉体を育む様々な交流シーンが展開する建築空間づくりをめざし、国産のスギやヒノキを使っ</p>

平面構成も秀逸である。この施設は、自然の恵みから豊かな暮らしを創造することを目指しているこの村の意志を体現している。

た立体格子木軸架構を採用。トップライトやハイサイドライトからの採光が木漏れ日のような演出効果をもつ省エネ設計を試みた。



講評

人口素材による河岸の整備に伴い激減したホテルを呼び戻すべく、村の青年有志を中心として結成されたこの会の24年間にわたる地道な努力により、今では宝珠山村がホテルの里として知られ、多くの観光客が訪れるまでになった。また、この運動を起点にして小中学生を含む村民による環境保全の学習活動を促し、空き缶のリサイクル活動をはじめとする美しい村づくりの活動に発展させた功績は大きい。



講評

ワークショップ方式による農を活かしたまちづくりへの模索から今に続く朝市が生まれ、さらに魅力的な校区づくり提言書を作成して市の総合計画に反映すると共に自ら実践し、他方、公開講座、国際交流、コンサート、各種シンポジウム、他地域の視察研修と、計画的でかつ多角的、そして住民自ら考えかつ行動するまちづくり運動を展開する一方広く情報発信しており、その他の模範として高く評価される。



講 評

ワークショップ方式による農を活かしたまちづくりへの模索から今に続く朝市が生まれ、さらに魅力的な校区づくり提言書を作成して市の総合計画に反映すると共に自ら実践し、他方、公開講座、国際交流、コンサート、各種シンポジウム、他地域の視察研修と、計画的でかつ多角的、そして住民自ら考えかつ行動するまちづくり運動を展開する一方広く情報発信しており、その他の模範として高く評価される。



第 17 回福岡県美しいまちづくり賞総評

福岡県美しいまちづくり賞選考委員会委員長 上和田 茂

大賞・優秀賞・(財)福岡県建築住宅センター理事長賞

昨年と同様、引き続き厳しい経済環境の下で建設活動は今ひとつ伸び悩んでいる感があり、この美しいまちづくり賞への応募作品の量と質も低下傾向にある。そういった傾向の中で、ひとつの光明といえば、昨年、やはりこの欄で応募作品が乏しいと指摘したまちなみ景観の部において、今回2点の優秀賞を得たことである。しかも、受賞対象が長い年月の風雪に耐え形作られてきた農村集落であり、ハード面だけにとどまらず地域をあげての集落保全活動も合わせて評価されたことは特筆に値する。選考の中で、これまでの募集および選考姿勢に対する諸種の意見が交わされ、建築物の総合的な評価に基づく作品の顕彰とともに、減速社会の到来にも合わせて、こういった自然発生的に形作られてきた生活環境や景観あるいは既存建築物およびその保全維持活動に対する評価の眼を持つことの大切さを再認識した次第である。次回からは、このようなコンセプトにしたがった新しい募集および選考基準による審査がなされることを期待している。

まちづくり貢献賞

本来、まちづくりは対象とする地域の特性や活動範囲により多様であり、その活動の中における人的貢献も様々で、貢献度を測ることは至難のことである。にしても、評価の目安としては、継続性、計画性、多角性、他のまちづくり活動への波及効果などの視点が挙げられる。今回、応募のあった5点はいずれ劣らぬ秀逸な活動であるが、表彰の対象となった3点は上記評価視点においてわずかに抜き出ているものである。
